

Title	編集後記
Sub Title	
Author	平野, 裕之(Hirano, Hiroyuki)
Publisher	慶應義塾大学大学院法務研究科
Publication year	2014
Jtitle	慶應法学 (Keio law journal). No.29 (2014. 4)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1203413X-20140423-0412

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

今年も慶應ローから216名の修了生が巣立っていった。彼ら、彼女らの卒業を祝し、法曹を中心としてそれぞれの道での成功を祈りたい。

法曹を目指す者はまず司法試験に合格しなければならない。合格の喜びによりそれまでの努力・忍耐が報われるはずである。そう書いて、ふと30年以上前の私が受験した旧司法試験を思い出したが、最終合格の発表に感動した記憶はない。口述試験はごく少人数が落とされるだけの試験なので、掲示板に自分の名前を見つけても「落ちてなくてよかった」という安堵の気持ちだけであった。択一の合格発表も残念ながら、私は受験番号を勘違いして落ちて人間の気持ちを味わっただけである。試験終了30分前に余裕で終わって合格を確信してただけに、茫然自失という言葉を実感した。その後何の気力も起こらず途方に暮れていたが、その1週間後に論文試験の受験票が届いて、何度も何度も見直して合格していたことを知り涙と共に昼にインスタントラーメンをすすったのは、懐かしい思い出である。論文の合格発表はうれしいはずであるが、試験まで2週間程度しかなく口述対策はどうしたらよいか分からず、ただパニックになっただけである。

旧司法試験ついでにいうと、私のゼミの同級生に受験15回目で旧司法試験に合格したという猛者がいる。合格祝いのため2人で一席設けた際に、当時私は債権総論と契約法の講義案を出版していたが、私の教科書で勉強したといわれて恐縮した覚えがある。かつて司法試験受験生が勉強する自習室は昼なお薄暗く、自習室の主のようなベテラン司法試験受験生が魑魅魍魎のように住み着いていた。そんな時代があったのである。上記の彼は弁護士になり今や消費者保護の分野では日弁連の重鎮であり、刑事事件でも、今年の3月には袴田事件の再審を勝ち取った。随分前になるが、第1審で負けた保証事件を、熱血の彼が「絶対に公式判例集に載せる判決を勝ち取る」と意気込んで私に相談してきた。私が保証問題を研究するきっかけである。現行司法試験ではこのような猛者は絶滅させられ、多くのロースクール生はお洒落な建物での短期間の勉強で法曹になっていく。

司法試験では人格や心意気などは試されない。しかし、慶應ローの薫陶のおかげか、既に慶應ロー卒の法曹が広く社会で活躍している。最近、講演会やちょっとした会合などで慶應ロー卒の法曹に挨拶されることが増えた。今年の修了生もいつかどこかでその立派になった姿を拜見できることを祈っている。

(編集委員を代表して 委員長 平野裕之)

本誌27号140頁注1の2行目を下記のように謹んで訂正させていただきます。

慶應法学編集委員会

誤 本郷亮
正 本郷隆